

「卒業を迎えて」 答辞

桃の節句も過ぎ、日ごとに春を感じさせる今日の佳き日に、私達三十六名は、卒業の日を迎えることが出来ました。本日は私達の為に、日本赤十字社京都府支部副支部長様をはじめ、ご来賓の皆様方、諸先生方、保護者の方々の多数の御臨席のもとに、このような厳粛な式を挙げて頂き、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

只今は、日本赤十字社社長様、京都府支部長様、京都府支部有功会様、学校長先生より、お祝いと激励のお言葉を頂き、喜びとともに、新たな決意を胸に致しました。

今日に至るまでの三年間は、一瞬のようでもあり、とても長い時間だったようにも思います。これから看護師となる私達にとって、意義のある、とても貴重な時間でありました。不安と希望を胸に入学した三年前、初めて触れる専門用語や看護技術に戸惑いながらも、あっという間に日々が過ぎていきました。初めての病棟実習では、緊張と不安の中、看護師の働く姿に憧れを感じつつ、自分は本当に看護師になることができるのだろうかと自問することもありました。しかし、緊張しながらの、ごちない私達の援助にも、笑顔で接して下さる患者様に逆に励まされ、「患者様に喜んで頂けるような援助ができるようになりたい。」と決意を新たにすることもありました。

ろうそくの灯りのもと、厳かに行われた戴帽式では、感動とともに憧れのナースキャップを戴いた時の喜びは、今でも鮮明に覚えています。そして、看護の道に進んだことを改めて実感し、看護師への思いを新たに致しました。一年次には、ずっと先のことのように感じられた領域別実習でしたが、新しい知識や技術を学び、必死に過ごしているうちに、気付くと目前に迫っていました。病棟実習では、看護師や先生方に何度も指導、



助言を頂きながら、実習記録や患者様に関する病態、援助の学習にとめまぐるしく日々が過ぎて行きました。これまで、自分が培った知識や技術を生かして、より良い看護を提供できるように励みました。しかし、自分の知識、技術、精神面の未熟さ、十分なケアを提供できないもどかしさに、悔し涙を流したこともありました。そのような時には、先輩看護師の姿やアドバイスから多くのことを学び、いつでも親身になり、話を聴いて励まして下さる先生方がいて下さいました。そして、一緒に実習に臨み、互いに支え合い、励まし合うクラスメイトの存在に何度となく救われました。また、患者様からの「ありがとう。」という温かい言葉や笑顔に何度も励まされました。本当に多くの方々の支えがあったからこそ、この三年間を乗り越えることができたのだと思います。三年間を通して、様々な患者様と関わらせて頂いたことで、私達は、看護師の役割と責任の重さを感じると共に、その素晴らしさにも気付くことができました。これまでに出会った全ての患者様への感謝の思いを胸に、これからも看護の道を進んでいきたいと思っています。

去年は、三月に東日本大震災が起こったことにより、一人一人が看護学生として何か少しでも自分たちにできることはないかと考えた年でもありました。本社研修で共に学んだ同じ看護学生も被災したことを知り、少しでも励みになればと、メッセージを届けましたが、復興へ向け頑張っている知らせを聞き、反対に私達が頑張ろうと思える力をもらうこともありました。

三年前、ここにいる仲間と出会い、今日まで共に歩んできました。授業や実習、どんな時も同じ目標に向かって切磋琢磨した日々を過ごしました。スポーツフェスティバルや文化祭といった行事を通して、私達の絆はどんどん深まっていきました。これらの経験は、私達にとって大きな糧であり、かけがえのない財産です。四月からは、病院で看護師として働く者、進学する者など、それぞれ進む道は異なりますが、三年間の学びや、思い出を胸に、新たな一步を踏み出していきたいと思っています。これからも、探究心をもって学習し続けるとともに、それぞれの目指す看護師像に向かい、努力を惜しまず進んでいきたいと思っています。

在校生の皆さん、これから苦しい時や辛い時など、挫折しそうになることもあるかもしれません。しかし、そのような時には一度、自分の周りを見渡してみてください。皆さんの周りには、クラスメイトや諸先生方の姿があるはずです。決して一人で抱え込まず、自分の気持ちを素直に話せば、きっとわかってくれる強い味方が多くいるはずです。共に支え合いながら笑顔で充実した学校生活を送ってください。

私達は、今日晴れて卒業することになりましたが、この日を迎えることができたのは、私達のことを一心に考えて下さり、厳しく、そして温かくご指導下さいました諸先生方、先輩方、いつもどんな時でも支えてくれた家族のお陰で、今日という日を迎えることができました。ここに御臨席下さいました方々は元より、全ての皆様に、卒業生一同より御礼申し上げます。まだまだ未熟な私達でございますので、今後とも、ご指導ご鞭撻を頂きますよう、よろしく願い申し上げます。最後になりましたが、学校と病院の限りない発展を祈りつつ、簡単ではございますが、卒業生一同を代表いたしまして、御礼の言葉とさせていただきます。

平成二十四年度三月六日

第七十八回卒業生代表

高木静香